



平成24年6月15日
林野庁 九州森林管理局
沖縄森林管理署

東村福地ダム周辺でのヤンバルクイナ親子の生息確認について

〔概要〕

5月20日、ヤンバルクイナの親子が東村の福地ダム周辺で撮影され、生息が確認されました。これは、希少野生生物保護管理のため沖縄森林管理署が行っている調査で、やんばるの国有林内に設置した自動カメラが撮影したものです。

一昨年この付近でヤンバルクイナ1羽が確認されていますが、今回の福地ダム周辺でのヤンバルクイナ親子の撮影は、生息域南限が南に広がってきていると思われる貴重な証拠と考えられます。

今回の生息確認は、森林環境の維持保全など生育環境が整ってきたこと、保護巡視活動などの成果によるものとも推測され、引き続き林内巡視やモニタリング調査等将继续していきます。

〔詳細〕

沖縄森林管理署では、沖縄の国有林に生息する希少野生動物を保護・管理するため、希少野生生物保護管理事業により、これらの生息地を定期的かつ継続的に巡視するとともに、生息状況等についてモニタリング調査等を行っています。具体的には、沖縄島北部では平成10年からヤンバルテナガコガネ、ノグチゲラを、平成14年からヤンバルクイナを、平成5年から西表島でイリオモテヤマネコ、平成9年からカンムリワシを対象に事業を行っています。なお、本年度は琉球大学に委託して事業を行っています。

今回、東村福地ダム周辺でヤンバルクイナの親鳥とヒナと一緒に撮影(写真:平成24年5月20日撮影)され、ヒナの生息が確認されました。福地ダム周辺では、一昨年、成鳥の生息確認ができましたが、ヒナについては、近年、確認はされていませんでした。今回、親子での生息が確認されたことにより、この付近が繁殖地となり、生息域が拡大していくのではないかと考えられます。

現在、ヤンバルクイナが多く繁殖確認されている地域から離れた箇所での発見で、大変貴重な情報です。今回の生息確認は森林環境の維持・保全など生育環境が整ってきたことや、保護巡視活動などの成果によるものとも推測され、今後もヤンバルクイナの生息状況の動向に引き続き注視しながら、現場巡視や調査を継続し、その要因を探るとともに、専門家や関係機関等と連携を図りながら絶滅の危機に瀕したこの鳥たちを守って行きたいと考えております。



図 ヤンバルクイナの親子撮影箇所位置図



写真中央に親鳥(右)とヒナ(左) (画像加工)



右下に親鳥、左上にヒナ(画像加工)



中央に親鳥、右上にヒナ(画像加工)



左下にヒナ

全て平成24年5月20日に撮影

【 問い合わせ先 】	
沖縄森林管理署	
業務課長	藤本 純一
森林ふれあい係長	濱田 巧
TEL:098-868-8829	